



ふゆのコートをつくりに
石井睦美/布川愛子




思い出のつまったおかあさんのコートが、わたしのコートになったの！雪のふる、しずかな朝です。はやく外に出てあそびたいさきちゃんを、おかあさんは屋根裏部屋へつれていきました。大きな箱をあけると、そこにはおかあさんの赤いコート。着てみるとさきちゃんにはおおいみたい…。「ミコさんに、したてなおしてもらいましょう」とお店にむかいます。

まめまきバス 藤本ともひこ



今日は節分。ところが、町ではカゼオニが大暴れしています。バスとねずみくんたちは、カゼオニをやっつけるため、豆を持って町に向かいます。豆まき行事にぴったりの絵本です。

エルマーのたんじょうび?
デビッド・マッキー/きたむら さとし



「あしたは、エルマーのたんじょうびだよ。みんなでお祝いしたふりをして、あとでケーキをプレゼントしておどろかそう！」
1頭のぞうの、そんな一言からはじまったひみつの計画。協力を求められた森の動物たちには、なんだか言いたいことがあるようで…。
さて、みんなはエルマーをびっくりさせることができましたでしょうか。
幼いころからいたずらが大好きだったという著者の、茶目っ気たっぷりの作品です。


アリスとふたりのおかしい冒険
カーシャ・ファント/佐竹美保/ないとう ふみこ

11歳のアリスは空想好きの女の子。死んだ母親との思い出のつまった屋敷をはなれて、スコットランドの湖のほとりにある寄宿学校に入ることになる。
お城を改修したその学校には、変わった先生がいっぱい！
アリスはクラスメートのふたりの男の子、探検家にあこがれるまじめなジェシーといたずら好きの天才ファーガスと仲よくなり、めんどろを起こしながらも楽しい学校生活を過ごしていた。
ところがある日、父親からふしぎな手紙がとどいて…？スコットランドの美しい自然を舞台に、三人の子どもたちの成長を描く、スリリングな冒険物語！
(Amazon より)

はまでら4つのや図書館 2023.1月の新着本より




おすしがふくをかいにきた
田中達也




マグロのおすしがお店に買い物にやってきた！
タマゴ、エビとたくさんあるすしネタから、何に変身するのかな？
身近なものを、本物そっくりの何かに見立てる「みたて」の世界で、楽しいストーリーを作り上げる田中達也の絵本第2弾！
アイスクリームにホットドッグ、ケーキや肉まんが、とってもしリアルな仮想の街で愉快なお買い物をします。
すみずみまで楽しい写真絵本。

まよなかのサイクリング
たるいし まこ



チャイロはたつくんちの飼い犬です。たつくんの自転車を見て「ぼくならもっと上手に乗れるよ」と思っています。ある夜チャイロがこっそり自転車に乗ると、飼い猫のシロが「サイクリングね？ あたしも行きたいな」と言うので後ろに乗せて「出発進行！」。得意になってこいでいきますが、坂道でブレーキがわからず大ピンチ…！？ 犬のチャイロと猫のシロが、飼い主の知らない楽しいことをする、ワクワク楽しい新シリーズです。

にわか魔女のタマユラさん
伊藤充子/ながしま ひろみ



「喫茶たまゆら」は、並木通り商店街にある、町でひょうばんの喫茶店です。
ある日、店主のタマユラさんは、お客のヨルさんというおばあさんから黒いカバンをあずかりました。おそろおそろ開けてみると、はいていたのは、なんと“魔女の持ちものセット”。しかもタマユラさんは、気づかないうちに、魔女のふしぎな能力をみにつけていました。相手が動物でも植物でも道具でも、名前をつけただけで、たちまち話せるようになっていたのです！
とつぜん“にわか魔女”になってしまったタマユラさんと、カバンからとびだしてきたなかまたちとの、にぎやかな毎日がはじまりました。

図書館の神様 瀬尾まいこ

思い描いていた未来をあきらめて赴任した高校で、驚いたことに“私”は文芸部の顧問になった…。「垣内君って、どうして文芸部なの?」「文学が好きだからです」「まさか!」…清く正しくまっすぐな青春を送ってきた“私”には、思いがけないことばかり。不思議な出会いから、傷ついた心を回復していく再生の物語。

あずかりやさん まぼろしチャーハン
大山淳子

一日百円で何でも預かります。東京の下町でひっそりと営業する「あずかりや」。「半年後に引き取りにこなかったらポストに投函して」と店主に託された手紙の行方は？ 突然店にかかってきた電話の相手は、意外な女性で…。高倉健、緒形拳、石原裕次郎の三人が預けた「ある物」とは？ 日本屈指の盆栽の名人が遺した名木を、不肖の孫が受け継いだことから巻き起こる大騒動…累計 30 万部突破、ほっこり切ない人気シリーズ第4弾。

みちづれの猫 唯川恵

ふり返れば、いつもかたわらに猫がいた——。
離婚して心身ともに打ちひしがれたとき、大切な家族を亡くしたとき、家庭のある男を愛したとき……人生の様々な場面で、猫に寄り添われ救われてきた女性たちを描く、心ふるえる全七編の短編集。

『ミアアがそろそろ旅立ちそうです』実家の猫に死期が近いことを母親から知らされ、私は東京から金沢へ向かうが……/『ミアアの通り道』
離れて暮らす会社員の息子が急死した。一日のほとんどもを仏壇の前に座って過ごす富江のもとに、お線香を上げたいと言う若い女性が訪れ……/「陽だまりの中」
軽井沢のフラワーショップに勤める早映子を訪ねてきた男がいた。それは30年以上前に別れ、ずっと会っていなかったかつての恋人だった……/「残秋に満ちゆく」

感染爆発 見えざる敵=ウイルスに挑む
デイビッド ゲッツ/西村秀一

1918年、インフルエンザウィルスがパンデミックを引き起こしました。日本でも国民の半数がかかり、2年間のうちに約385,000人もの人が命を落としたのです。亡くなった人の大半は、若く、健康な人たちでした。
本書はおよそ100年前のパンデミックの話ですが、急ごしらえの病院にずらっとベッドが並ぶなど、いままさにニュースで見ているものと同じ光景がそこにはありました。
100年前とは比べものにならないスピードで、人や物が行き来する現在、感染症のパンデミックについて、是非、子どもたちに知ってほしいとの思いから、緊急復刊致します。
パンデミックは、一度来たら終わりではありません。世代を超えて準備していかなければならないというメッセージを若いみなさんにこそ、受け取っていただきたいと思います。

100万回生きたきみ 七月隆文

美桜は100万回生きている。さまざまな人生を繰り返し、今は日本の女子高生。終わらぬ命に心が枯れ、何もかもがどうでもよくなっていた。あの日、学校の屋上から身を投げ、同級生の光太に救われた瞬間までは。「きみに生きてほしいんだ」そう笑う光太に美桜はなぜか強烈に惹かれ、2人は恋人に。だがそれは偶然ではない。遙かな時を超え、再び出逢えた運命だった——。100万の命で貫いた一途な恋の物語。

風とにわか雨と花 小路幸也

ぼくが九歳、姉の風花ちゃんが十二歳になった四月に、お父さんとお母さんは、離婚した。理由を訊いたら「今は説明してもわからないと思うので、言わない」ってお母さんは言った——
じつは、父が専業作家を目指し、仕事を辞めたことが原因らしい。
仕事に復帰した母と暮らす小学生の姉と弟は、休みのタイミングで、父が暮らす海辺の町へ行く。そこで出会う人々との交流で、子供たちは成長していく。
また、ひとり家で待つ母にも、心情の変化が……。自分に素直に生きようとする男と、その妻、子供たちのイマドキな家族のカタチを、それぞれの視点で繊細に描いた優しい小説

※掲載している書影、明記のない紹介文は版元ドットコム(<https://www.hanmoto.com>)より引用しています